

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 新規受託項目

- [26037] 高感度HBs抗原

#### 受託開始日

- 平成26年3月11日(火)

## 高感度HBs抗原

B型肝炎ウイルス (HBV) の持続感染者数 (キャリア) は、全世界で4億人以上いるといわれ、感染低頻度国とされる日本でも110万人以上と推定される非常にインパクトの強い感染症の一つです。

近年、抗がん剤投与や免疫抑制療法中の臓器移植患者などのHBVの再活性化が問題となっています。再活性化による肝炎の発症は一般的にde novo肝炎と呼ばれ、2009年の「免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドライン」でも1回/1～3か月のHBV-DNA核酸増幅検査が推奨されています。

しかしながらB型肝炎のために核酸アナログ製剤治療を受けている患者では、HBV-DNA量が投与直後急激に低下し、検出感度以下になることが指摘されており、そのため、HBVのenvelope蛋白であるHBs抗原が持続感染の指標として検査されてきました。

また、2013年の「B型肝炎治療ガイドライン」にはHBV-DNA量のみではなく、HBs抗原も定期的に測定することが推奨されています。

従来のHBs抗原検査も広い測定域を持ち、一般的なB型肝炎の診断等には十分とされますが、de novo肝炎のモニタリングや核酸アナログ製剤投与患者には、さらなる高い検出感度を持つ測定系の登場が望まれていました。

「高感度HBs抗原」は従来の定量試薬と比較し約10倍高感度とされ、感染初期HBV検出においてHBV-DNA核酸増幅検査とほぼ同等の感度を持つとされる検査です。

本検査は、①B型慢性肝炎の自然経過、②治療の経時的推移、③輸血前後スクリーニング、④再活性化モニタリングなどに有用と考えられます。

### 検査要項

項目コード	26037
検査項目名	高感度HBs抗原
検体量/保存方法	血清またはEDTA血漿 1.2 mL/凍結 [容器番号62番/ウイルス遺伝子検査用容器または80番/TaqManPCR法容器(血漿)]
検査方法	CLEIA
基準値	陰性 (-) 0.005 IU/mL 未満
所要日数	3～4日
検査実施料	88点 ([D013]肝炎ウイルス関連検査 [3]HBs抗原)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	1. ご依頼に際しましては、他項目とは別に専用検体 (専用容器) としてご提出下さい。 2. フィブリンの析出により検査値が偽陽性または偽高値になる可能性がありますので、採血後は直ちに転倒混和して下さい。 3. 検査結果が陽性の場合、他の検査結果などと併せて、総合的なご判断をお願い致します。

### 参考文献

新海 登, 他: 臨床病理, 58(11), 1078～1084, 2010